

壁紙施工要領書

- 桐格子壁紙 -

【該当品番】（2013－2017WD）

LY－14715～14719

■特長

- ・厚さ 0.16mm に薄くスライスした桐を 30mm 巾にして格子状に編み込み、顔料や染料により深い色合いを表現した商品です。

■下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は除去するようにしてください。
- ・パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・張り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあとに施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと目開きの原因になります。

■接着剤

- ・糊付け機を使用しての糊付けは可能です。
- ・接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：6～7 にエチレン酢ビ系ボンドを 10～20% 程度を目安に混合してください。また、塗布量は多めにしてください。（このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要になります。）
- ・粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に接着剤をつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

接着剤塗布後は、うませ時間を 5～10 分程度、施工可能時間は 120 分以内を目安に作業を進めてください。

- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイント部分は目地棒の使用もしくは目地取りした施工をお勧めします。（素材の構成上、ジョイント部に色差・段差が出やすいため）
- ・表面が傷つきやすいため、なで付けは柔らかめの刷毛を使用していねいに行なってください。
- ・ローラー掛けの際はウレタン製のものをご使用ください。あまり強くかけますとテカリが発生してジョイント部分が目立ってしまうことがあります。
- ・粘着テープの使用は、テープを剥がした際に壁紙表面を破損するおそれがありますので、なるべく使用は控えるようにしてください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。
- ・ジョイント部分は目地棒の使用もしくは目地取りした施工をお勧めします。（素材の構成上、ムラやイレギュラーな部分があるため）

■その他

- ・商品自体硬く出隅の曲げに対応できません。あらかじめご了承ください。

■施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。